

| | |
|------|----------------|
| 受入先 | NPO 法人 穎娃おこそ会 |
| 役職 | |
| 隊員氏名 | 小野寺 宗貴 |
| 着任日 | 令和 5 年 7 月 1 日 |

| | |
|------|--|
| 活動月 | 令和 6 年 8 月（着任 1 年 2 カ月目） |
| 主な活動 | 1 鹿児島県地域おこし協力隊員・職員合同ステップアップ研修会参加 2 地域おこし協力隊員との意見交換、台風対応 |

1. 鹿児島県地域おこし協力隊員・職員合同ステップアップ研修会参加

県内の地域おこし協力隊員と支援する県や自治体の職員とが集まり、合同のステップアップ研修会に参加しました。

えひめ暮らしネットワークの鍋島様と本田様の講演があり、任期中に行っておきたい退任後を見据えた活動ポイントをお二方の経験をもとに紹介され、ロードマップ作りの重要性についても紹介されました。また、当市の地域おこし協力隊を経験された原本様の現役時代の活動と退任後の生業の紹介とともに、隊員時代に考えていたことや計画・行動について学びました。

その後、事前に作成したワークシートをもとに今後のロードマップを作成するワークショップを行いました。自分自身や他の隊員からの活動内容や自己実現につながる活動も含めて話し合い、様々な取り組みをされていること、今後の活動に役立つヒントを得ることができました。

できることから地道に取り組むことで今後につなげていく。様々な制約がある中でも地域を良くするために取り組んでいる。協力して取り組めば、地域で連携した活動も行えると感じました。



※ 穎娃駅及び周辺の風景です。鉄道のある風景を残す取り組みも話し合いました。

2. 地域おこし協力隊員との意見交換、台風対応

11月に颯娃町で開催されるゴツソイ祭りの出店内容について、地域おこし協力隊員の方と意見交換しました。

先月に話し合った内容を出店経験者に話し、いただいたアドバイスをもとに内容を追加するなど、活動内容を多くの方に知っていただけるような出店を行いたい気持ちをお互いが感じながら意見交換しました。

鹿児島県に大きな被害をもたらした台風10号ですが、対応に携わりました。

前職(首都圏の鉄道会社で駅勤務をしていました)でも対応したことがあり、運転再開前に駅構内を巡回した際、ホーム上にあるポスターパネルのプラスチック板が飛んでいたことや、比較的大きな木の枝が折れて線路上に乗っており、撤去作業をしたこと、運転再開後も線路際にあるものが倒れてくるなど(その場合は列車を止めて対応しました)、気を抜けない経験をしたことがあり、対応に慣れたつもりでいましたが、台風銀座と呼ばれる九州だけあって暴風雨の威力の大きさを肌で感じました。

駅待合室や事務所の窓ガラスが割れて飛散しないよう、養生テープを貼ることは首都圏の駅でも行っていましたが、台風対策要員を配置して準備できる場所、少ない人数で対応しなくてはならないことが大きな違いと思いました。

被害が出た後の対応が大変になることを想像しながら準備したところ、設備の破損や被害もなかったことで、胸をなでおろしました。設備は比較的台風強い作りになっているとは言うものの、威力が年々大きくなっているため、準備を怠らずに取り組んでいきたいと思いました。

